



すべての基地を花園に
すべての人の心に花を
戦争よりも祭りを

すべての武器を
楽器に。

キナ 喜納昌吉さん 参議院比例区出馬へ

「ハイサイおじさん」や「花（すべての人の心に花を）」などのヒット曲で知られるミュージシャンの喜納（きな）昌吉さん（五十五歳）が、「平和を実現しうるものは、武器ではない。すべての武器を楽器に」と、七月十一日投票予定の参院選比例区に出馬することを表明しました。

国会に新風を、変化を

喜納さんは沖縄出身で、様々な平和・人権・環境活動に活躍してきました。また「平和に向かっていく政党はどこでも応援する」というスタンスで政治に関わり続けて来ましたが。（昨年、私も推薦をいただいています）

市民の新しい政治を

政治家の家系でも、官僚出身でも、特定の利権の代表者でもない、市民の政治を実現しようと本気で考え行動する政治家の登場によって、国会に新風が吹き込まれ、変化が生まれるはずだと思います。

前回の参院選挙から制度が変更され、比例区でも候補者個人名で投票するようになりました。（政党名も可）

私も微力ですが、古い政党の枠にとらわれることなく、市民の新しい政治を創るため、ボランティア選挙に取り組んでいきたいと思っています。



盛岡市議会議員

いせ志穂 (市民会議)

事務所 盛岡市青山3-29-4 〒020-0133

電話・FAX 645-8510

自宅 盛岡市前九年1-9-26 〒020-0127

電話 646-5396 FAX 646-6524

<http://www.nnet.ne.jp/~ise/> E-mail: ise@nnet.ne.jp

発行 2004. 6. 1

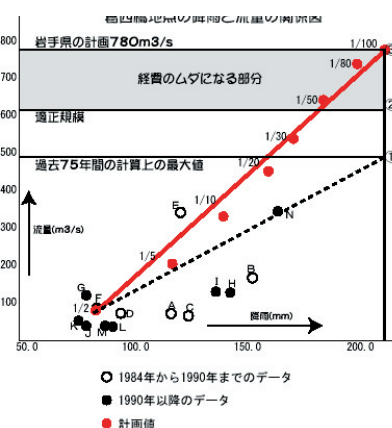
東安庭の堤防改修で「ダムなし治水」が可能に

「築川ダム取水計画は過大だった」―盛岡市、利水見直しへ

築川ダム取水計画縮小の提案は市民の声の勝利です。しかし、取水事業には参加の方向で縮小案も不十分です。

治水計画も過大

グラフのように治水計画も過大なものになっています。



不安が残る東安庭の堤防

葛西橋地点での流下能力は毎秒三四〇ト。しかし一昨年

の台風では、毎秒三三五トの流量で堤防が浸食されてしまいました。安全のためには堤防の強化がまず必要です。

北上川合流部から七百メートルの現状の流下能力は毎秒八〇〇ト。ごく一部の護岸改修だけで、人家が密集する地域で毎秒六百トの流下能力を確保できます。ダムよりはるかに安価で安全になります。

「自衛隊を今すぐ返そう！県内一万人行動」御礼

イラクでの日本人質事件をうけて、署名や要請行動に取り組みました。四月九日〜十七日までの緊急行動でしたが、本当にたくさんの皆様にご協力いただきました。今後も、自衛隊の撤退と武器によらない支援を要望し続けます。ご協力いただいた皆さん、ありがとうございました。

利水・治水の総合見直しを

岩手県と盛岡市は今年六月頃までに結論を出し築川ダムの設計に入るとしています。今の計画のままでは、税金が無駄な事業に費やされてしまいます。利水と治水の両方にわたった見直しを求める声を上げてください。

お手伝いください

いせ志穂事務所と市民会議はボランティアとカンパで運営されています。このニュースを知人に見せてください。ポスティングなどお手伝いいただける方は、ぜひご協力をお願いします。



カンパのお願い

議員歳費の多くを活動につぎ込んできましたが、やるべき事が増える一方、議員歳費を減額。それにともない赤字が続いています。このご時世大変心苦しいお願いですが、カンパもよろしくお願いします。郵便振替口座 02230-8-52327 伊勢志穂



年金改革を考える

必要なのは格差の是正
再分配による本来の「助け合い」制度に

国会議員の未納問題と辞任劇ばかりが強調され、数々の疑問に答えることのないまま、年金改革関連法案は自民・公明両党などによる強行採決で可決・成立しました。国民世論を無視した強行採決に私は怒りを禁じ得ません。

本来は国民の中で急速に広がる所得格差を是正するような年金改革が必要なのだと思います。

審議で生まれてきた疑問

1. 保険料の値上げ、給付額の値下げはどのくらいか。
2. 改革で未納者が減るか。
3. 社会保険庁への流用問題。
4. 年金に関する収支や資産、負債が公表されていない。
5. 年金制度への信頼が取り戻されるか。

「納付・給付額固定」のウソ

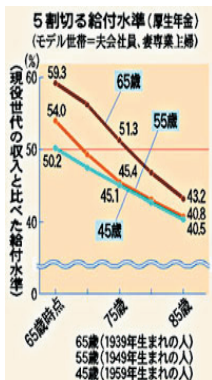
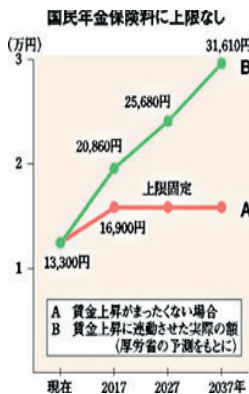
【政府の説明】

- 二〇一七年以降の保険料（厚生年金）年収の一八・三〇％（労使折半）で固定（国民年金）一万六千九百円で固定
- 厚生年金給付

モデル世帯（夫四十年加入、妻は専業主婦、夫婦二人分）で現役世代の平均的な手取り年収の五〇％以上を確保

【事実】

厚生省試算の物価上昇率を加味すると、保険料はもつと上がる予測になります。



給付額も、年齢が高くなると五〇％を割り込みます。

「改革」によって、未納者は増える

国民年金の未納率は三七・二％（二〇〇二年度）学生納付特例者や保険料全額免除者を入れると約半数が保険料を納めていません。

厚生年金はどうでしょうか。企業は社会保険料納付額を減らすために、パートや請負・派遣への切り替え、ボーナス・賃金支給方法の変更などを行なっています。また、経営が不安定であることを理由に、厚生年金に加入しない企業も増えていると聞きます。

「重い保険料」が年金制度を空洞化させているのです。

今回の年金保険料の値上げで未納者が増えるのは火を見るより明らかです。

ひどすぎる「流用問題」

年金積立金の約四分の一を自主運用している厚労省の特殊法人「年金資金運用基金」ではこの三年間の運用で六兆円もの損失を出しています。

また、社会保険庁事務費への流用も明らかになりました。年金保険料で病院や保養施設が建設され、天下りの温床になっっています。職員健康診断の費用にまで年金保険料が使われていたことも明らかにになりました。

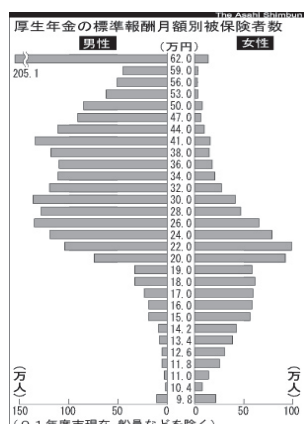
一体誰がこの責任を取ったのでしょうか？

抜本的改革は格差の是正から

高収入に有利で、低収入には過酷なのが年金制度です。

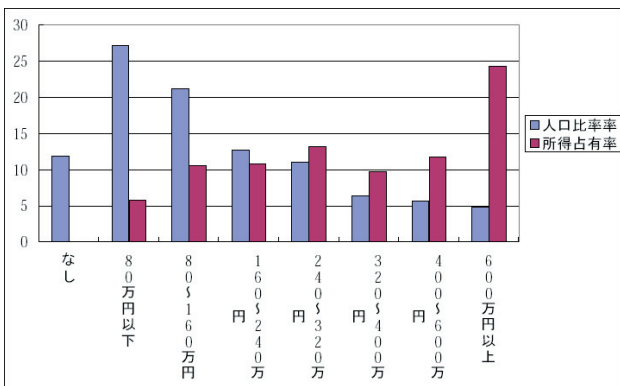
【保険料納付の逆進性】
所得に関わらず定額の国民年金保険料は、明かな逆進性を表しています。

また、厚生年金は収入によって三十段階の保険料設定ですが、上限は六十二万円。実際の月給がいくら高くともこの三十等級になります。その人数二百五万一千人と最多数。



国民年金保険料を所得に応じた段階制にする、厚生年金保険料上限を高く設定し、多段階にする必要があります。

【六十五歳以上の所得格差】
グラフは六十五歳以上の人口と所得を示したものです。



年収八十万円以下の所得人口は四〇％にもなりますが、その金額は六十五歳以上の人々が得る所得のわずか六％。かたや六百万円以上の人たちの所得平均は千八百八十三万円。人口で四％にすぎない人々が実に所得の二十四％を独占し

ているのです。

【高額所得者へ給付制限を】

前述のことから「現役世代で所得の低い人が何とかやりくりして支払った年金を、所得の高い人たちがまでもがもらっている」という構造が浮き出て来ます。年金給付財源が小さくなっている中、高額取得がある高齢者には給付を減らさざるを得ないと私は思います。

公的年金制度は、現状の収入格差を是正する再分配制度と言う観点に立ち、格差の是正を一番の柱においた制度改革すべきです。

政治を変えよう

しかし、政府与党は、税制・社会保険制度において、所得格差を拡大する方向で「改正」し続けてきました。今回の年金制度改革もこの通りです。

税制・社会保障制度を公正なものにするためには、政権を変えなければなりません。

与党の「数の横暴」や野党の「非力」を嘆いても何も始まりません。既成の政党・組織の枠にとらわれず、ボランテニアで政治に参加することで、政治を変えましょう。

私の求める年金制度改革

- 1まず、年金の基礎データを公表する。
- 2年金制度を一元化する。
- 3納付・給付は、所得に合わせて決定する。
- 4公的年金制度は就労が出来なくなった場合の生活保障制度と考え、それ以上の給付を求めるときは、共済や保険などを個々人が利用する。
- 5財源に税金を当てる比重を高くする。（当面二分の一まで引上げ）ただし、消費税の財源化には反対。